

# 図画工作科学習指導案

第6学年

## 【題材】 ちょっと未来をのぞいたら（立体に表す）

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<b>育成を目指す資質能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の動きを表すために効果的な、材料の加工や着色を工夫する力 (A(2)イ)</li> <li>材料の加工や着色を工夫する際の自分の感覚や行為を通して、針金や粘土などの動きやバランスを理解する力 (共(1)ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の将来の夢や願いを実現した姿を想像し、人物の動きを表すための材料の加工や着色の工夫について考える力 (A(1)イ)</li> <li>自分の表したいことに向けて製作を進めていく中で、針金や粘土などの動きやバランスから、さらに自分なりのイメージや思いを広げる力 (共(1)イ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の想像した人物の動きを、加工や着色を工夫して製作したり、友達の作品から加工や着色の工夫を見付け、思いを感じとったりすることを楽しむ態度</li> </ul>
<b>子どもの実態</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工や着色など、複数の方法を組み合わせる経験が少ない。</li> <li>自分が表したいことに合わせて、材料の加工や着色を工夫することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が表したいことに合わせて、材料を選んだり、加工や着色の仕方を考えたりすることができている。</li> <li>最初にもったイメージに満足し、自分なりのイメージや思いを広げることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が表したいことに近付けるために加工や着色を工夫することや、友達の作品の加工や着色の工夫を見付けることを楽しんでいる。</li> <li>友達の作品を見て、作品に込められている思いを感じ取ることが難しい。</li> </ul>
<b>価値</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本題材は、自分の将来の夢や願いを考えることで、自分自身と向き合い、これまでの成長や自分の特性を知ることができるものである。小学校卒業や中学校入学を目前に控えた、小学6年生という発達段階の子どもにとって、未知なことへのイメージや思いを広げるきっかけにもなる。また、針金や粘土などの材料は、これまでの図画工作科の学習において、様々な題材で用いられてきたものである。アルミの針金や紙粘土の、容易に変形や接着ができる特徴を生かして大きさや厚みを繰り返し加工をしたり、水彩絵の具の色の組合せ方や水の量、筆の動かし方を工夫したりして、自分の表したいことを実現することが可能である。さらに、段ボールや空き箱、木っ端などの様々な材料も組み合わせながら人物の周りの様子を構成し、配置や大きさを工夫して奥行きを表現できる。これらのことから、様々な角度から見た時の、立体作品のよさにも気付ける。子どもたちは、必然性を感じながら自分の将来の夢や願いについて想像し、その様子を表現しようと、様々な材料の加工や着色を工夫しながら造形活動に取り組める。</li> <li>表したい人物の動きに合わせて、針金や粘土などの材料を変形したり接着したりし、絵の具で着色することによって、自分の将来の夢や願いを実現した様子を表すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>針金や粘土など様々な材料の加工や着色を何度も試すことにより、自分の表したい人物の動きに効果的な方法を考えることができる。</li> <li>様々な角度や距離で見ることにより、人物と周りの様子との構成や奥行きによさに気付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友達の作品から、様々な材料の加工や着色の工夫を見付けたり、想像した将来の夢や願い、作品に込められている思いを感じ取ったりし、交流を楽しめる。</li> </ul>
<b>見方・考え方</b>	針金や粘土などの動きやバランスを、人物の動きの視点で捉え、将来の夢や願いについて自分なりのイメージや思いをもちながら、意味や価値をつくりだすこと。		
<b>今後の学習</b>	中学校での立体の学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	自分の将来の夢や願いを想像し、材料の加工や着色を工夫しながら、自分なりの思いを込めて立体に表すことを楽しめる。		
評価 規準	(①知・技) 自分の想像した将来の夢や願いに合わせて、材料の加工や着色を工夫することができている。 (②思・判・表) 自分の将来の夢や願いを実現した姿を想像し、人物の動きを表す材料の加工や着色の工夫について考えている。 (③主体的態度) 材料の加工や着色を工夫して表現したり、友達作品から加工や着色の工夫と想像を感じとったりすることを楽しんでいる。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	2	○友達と将来の夢や願いについて話しながら、将来の自分の姿を思い浮かべ、表したい場面のイメージをもつ。 学習のめあて 様々な材料を組み合わせ、自分の想像した未来を表わそう	○将来の自分が夢や願いを実現した姿を、針金や粘土などで表現することに興味をもてるよう、材料を試す場面を設定する。
	1	○表したい場面を考え、簡単なアイデアスケッチに表しながら、人物の動きと周りの様子について考える。	○将来の夢や願いを実現した姿を具体的に想像し、アイデアスケッチに表せるよう、人物の動きと周りの様子について話し合う場面を設定する。
あらわす・ひろげる	2	○人物の動きを表す針金の芯をつくり、板の上に固定する。	○人間の体は関節の部分で曲がるということ意識して芯がつくれるよう、ペアで動きを見合う場面を設定する。
	2	○板の上に固定した針金の芯に、粘土をつける。(本時2/2時)	○人物の動きと、頭や胴体、手足などの大きさのバランスを確かめながら粘土をつけられるよう、様々な角度や距離で見合い、助言し合う活動を設定する。
	2	○粘土を絵の具で着色する。	○色の組合せ方や筆の動かし方を試しながら着色できるように、試しに着色できる紙を用意する。
	2	○様々な材料を用いて、人物の周りの様子をつくる。	○人物と周りの様子との配置や大きさを確かめながら周りの様子をつくれるよう、段ボールや空き箱、木っ端など様々な材料を十分に用意する。
かふえる	1	○作品を見合い、人物の動きや周りの様子の加工や着色の工夫を見付ける。	○加工や着色の工夫を見付け、作品に込められた思いを感じとれるよう、様々な角度や距離で、自由に作品を見合える場面を設定する。
			◇将来の夢や願いを実現した姿を思い浮かべ、表したい場面についてイメージしたことを発言している。 <発言③>  ◇将来の夢や願いを表す人物の動きを考えながら、アイデアスケッチに表している。 <スケッチブック②>  ◇人物の動きがわかるように針金を加工して芯をつくり、ステープルで土台に固定している。 <行動・作品①>  ◇人物の動きに合わせて、頭や胴体、手足などの大きさのバランスを整えながら、芯に粘土をつけている。 <行動・作品①>  ◇色の組合せ方や筆の動かし方を工夫して着色している。 <行動・作品①>  ◇配置や大きさのバランスを試しながら、様々な材料の加工や着色を工夫して、周りの様子をつくらせている。 <行動・作品①>  ◇加工や着色の工夫や、作品に込められている思いを感じとり、友達と話したり記述したりしている。 <ロイロノート①②③>

**本時の学習（6・7／12時間目）**

ねらい 変形や接着のなどの加工を工夫して針金の芯に粘土をつける活動を通して、人物の動きや大きさのバランスを理解することができる。

評価項目 人物の動きに合わせて、頭や胴体、手足などの大きさのバランスに気を付けながら、針金の芯に粘土をつけている。

<行動・作品①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p><b>1 本時のめあてをつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回は、フィギュアスケートの選手として、オリンピックで活躍する様子を表すために、氷の上で回転する人物の動きを針金でつくったけれど、針金の骨だけだと、頭や胴体の向きやバランスがよくわからないな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回つくった針金の骨に粘土をつけて、人物の回転する動きがより伝わるようにしていきたいな。 (目的意識)</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの課題を想起できるように、自分の表したいことに合う人物の動きや針金の加工の工夫、広がったイメージや思いについて問いかける。</li> <li>○本時で行う活動の見通しがもてるように、針金のみで製作した作品と、粘土をつけた作品を提示し、粘土の動きやバランスを生かして製作するよう促す。</li> </ul>
<p>めあて：人物の動きや体のバランスを考えながら、針金の芯に粘土をつけよう</p>	
<p><b>2 自分なりに想像した、将来の夢や願いを実現した姿をつくる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・針金の骨に沿って薄く粘土を巻きつけた後、頭の球状の形や、胸やお腹の厚みに気を付けて、粘土を指でこすりつけてみたぞ。だんだんと、人物の向きや体を反っている動きがわかるようになってきたな。</li> <li>・手と足が同じ太さで、体のバランスが整っていないから、手と足の太さにも気をつけて粘土をつけた方がよさそうだな。</li> <li>・太ももとふくらはぎに粘土を重ねてつけたら、体のバランスがよくなってきたな。友達にポーズをとってもらって、見比べてみよう。</li> <li>・友達のパーズと見比べると、大体の形は合っているけれど、少し変な感じがするぞ。友達の作品を見て、今の自分の作品の変な部分を考えてみよう。</li> <li>・友達は首や腕の付け根が自然につながるように、肩の動きにも気を付けてつくっているな。私も粘土が固まる前に、肩や関節などに気を付けて変形してみよう。</li> <li>・胴体から出ていた首や腕を、肩とつながるように変えたり、肘や膝の部分で腕や脚が曲がるように変形したりできたぞ。</li> <li>・関節をつくりなおしてみたら、人物の動きや体のバランスは整ったから、表情や服装など細部も、つま楊枝を使って表していきたいな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋肉や関節の形に気を付けながら粘土をつけることで、針金の骨だけの時よりも、人物が回転する動きが伝わるようになったぞ。 (目的を達成した意識)</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の表したいことに合わせて用具を選択できるように、粘土べら、つま楊枝、タコ糸などの用具を各班に配付し、テクスチャーを提示しながら、効果的に使える場面について問いかける。</li> <li>○様々な加工の工夫を取り入れて製作できるように、個人で使うものとは別の針金や粘土を材料置き場に設置し、自由に試してよいことを伝える。</li> <li>○人物の動きに合わせて粘土の大きさや厚みを工夫できるように、アイデアスケッチを見返したり、友達にポーズをとってもらったりするよう促す。</li> <li>○頭や胴体、手足などの大きさのバランスを確認しながら粘土をつけられるように、様々な角度や距離で見たり、友達と見合ったりするよう助言する。</li> <li>○粘土の大きさや厚みを変えると、手足などの大きさのバランスが整い、動きが伝わりやすくなることに気付けるように、筋肉や関節の粘土のつけ方を工夫している子どもを称賛し、全体に紹介する。</li> <li>○納得のいく作品を製作できるように、粘土の加工がうまくいかない子どもには、何度もやり直せることを伝え、本人の気持ちについて問いかける。</li> <li>○表情や服装など細部の製作も進められるように、人物の動きや、頭や胴体、手足などの大きさのバランスが整えられた子どもには、人物の姿に不足しているものについて問いかける。</li> <li>○自分の製作過程を残し、いつでも見返せるように、本時にできた粘土の加工の工夫や、広げたイメージや思いについて、文章や記録写真にまとめるよう促す。</li> </ul>
<p><b>3 本時の学習の振り返りをする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・針金に粘土をつけるには、針金の引っかかりや粘土をつける順序を工夫する必要があったな。粘土も針金も、簡単に形を変えられるので、筋肉や関節を表すために何度も修正ができ、納得のいく形にできたぞ。</li> <li>・次回は、粘土に絵の具で色をつけて、人物の回転する動きだけでなく、フィギュアスケートをしている時の楽しさが伝わるようにしたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の作品の成果や課題を自覚できるように、本時で思い通りの様子にできた粘土の加工や、材料の特徴として気付いたことについて問いかける。</li> <li>○次時の活動に見通しがもてるように、自分の表したいイメージや思いに対して、足りていない表現について問いかける。</li> </ul>

※本時は、点線の枠内